浜松市生活支援体制づくり協議体（第２層、高丘圏域）　第１回会議　議事録

開催日時	令和５年６月１３日（火）９時３０分から１１時１０分まで
参加者	委員：１３人　事務局：１０人
場　所	北部協働センター　第２・３講座室
内　容	１．開会 ２．挨拶　　生活支援体制づくり協議体会長 　新規委員・関係機関　紹介 ３．協議内容 ⑴ 協議体会議について パワーポイント資料を用いて、協議体会議開催の背景について説明をした。 ⑵ 昨年度の振り返り 第1回会議：認知症高齢者声掛け訓練 第2回会議：地域で認知症高齢者を対応したケースについて （北部交番・遠州信用金庫） 第3回会議：認知症に優しいまちとは？ パワーポイント資料を用いて、協議体会議開催の背景について説明をした。 協議体会議での意見をふまえ、認知症に関する情報をまとめ、協議体として今後地域へ発信していきたい。具体的には、認知症に関するチラシを作成し、萩丘中、葵・高丘地区に住んでいる人たちに向けて配布するというような内容で考えており、具体的な形や配布方法などについては今後協議をしていく。 ⑶ グループワーク 協議体から地域へ認知症の情報発信について ～地域に伝えたいこと、伝えるべきこと～ Ａグループ ・相談窓口が伝わっていない ・介護者のサポート ・仕事（役割）・居場所が必要 ・認知症の症状の理解するにあたり事例を挙げて伝える。 （自分で認識する機会も必要） ・「浜松市認知症高齢者等に優しいお店・事業所認証事業」認証店の紹介 ・私の認知症予防を紹介　　例）食べ物・食べ方・生活習慣など ◎配架するにあたってどの規模で、どの対象者に向けて発行していくのか。 Ｂグループ ・認知症の症状の理解（正しい知識）が必要　物忘れと認知症との違い ・当事者や家族に向けた相談先や集いの場を周知 例）家族会・民生委員・包括支援センターなど ・外出することで生活に緊張感を持つことが出来る…介護予防・居場所

	・体験談、地域での対応事例 ・オレンジシール、認知症サポーター養成講座など取り組みを知ってもらう Ｃグループ ・認知症の周知、特別な病気ではないことを知ってもらう ・協議体としての活動してきたことを形にする ・老人会や地区団体として行っている事の紹介 ・認知症の具体的な症状 ・知識と実体験を知ることで、“我がごと”として考えてもらう ・相談先があることの広報、かかわり方を地域に発信 ⑷　全体共有 ・グループワークで話し合った内容について、各グループの代表者より発表をした。 ・発表後テーマ案として①認知症とは②認知症予防・居場所③家族への支援④啓発とし、第２回協議体開催時にテーマごとにグループワークできるよう、興味のあるテーマに投票いただいた。 ４．事務連絡 ５．閉会　　生活支援体制づくり協議体 副会長
今後の見通し等	認知症を知らない人には当事者や家族は近隣住民であっても打ち明けたり、相談する事が出来ないと改めて知った。協議体会議でとりあげきた協議テーマにもあったことを地域に発信・通信をすることにより、ひとりひとりの意識向上と日常生活に身近に隣りあわせていることと捉え、すすめられるようにしていきたい。